

# 2022年度活動報告

2022年4月 - 2023年3月



すべてを失っても、もう一度つながれる社会



居住支援法人 特定非営利活動法人  
やどかりサポート鹿児島

# 2022年度 活動の報告と支援への御礼

設立から15年。

やどかりは、主たる実践である「地域ふくし連帯保証」を中心に、シェルターの運営・入居後の支援である「やどかりライフ」、病気や死亡時の支援である「つながるあんしん事業」と、トータルな居住支援を行うようになりました。誠にありがとうございました。

その全体をとおして「当事者主体の居住支援」という高く大きな理念を掲げ、居住困難に陥った経験のある当事者の方々とともに活動しています。

さらに、今年度は、組織面財務面でも取り組みを強め、特に「ファンドレイジング」に取り組みました。

こうした様々な試みをとおして、本気で孤独死をなくす取り組みである「孤独死ゼロアクション」を始めることになりました。

2023年度、やどかりは、事業全体を「参加型事業」へと転換を目指し、組織力・財務力を高めつつ、「地域ふくし連帯保証」を中心に、当事者の方々とともに、本気で「孤独死ゼロ」に取り組んでいきます。

特定非営利活動法人やどかりサポート鹿児島  
理事長 芝田 淳







居住支援法人 特定非営利活動法人  
やどかりサポート鹿児島

# 2022年度活動成果の トピックス

## 地域福祉連帯保証利用者数

**398**人

前年比+35人 9.6%増加

2022年度の利用者は昨年度の363人から35人増え、398人となり9.6%の増加となりました。障害者や、高齢の方が増加しています。

## やどかりライフ参加者数

**107**人

前年比+76人 245%増加

支援者さんがいない人同士が共に支え合う「やどかりライフ」。参加者は107人となり、昨年度の31人から245%増加しました。2022年度は参加者のクリスマスイベントや、お餅食べよう会など居場所も全83回開かれました。

**シェルター運営3部屋。助けた人は26人。**  
個室型シェルターを3部屋運営し、緊急度の高い要支援者が安心して過ごせるスペースを作りました。運営に居住困難の経験があるピアサポーターが協力し路面電車の乗り方や、退去後の清掃を行いました。20代～70代まで26名の方が利用されました。



シンポジウム



**シンポジウム申し込み人数は169人!**  
**ピアサポーターも参加**

2月に行われたシンポジウムでは、ピアサポーター参加型のシェルター事業について発表を行いました。スタッフと一緒にピアサポーターが発表するのは珍しく、朝日新聞の社説でも取り上げられました。

**第55回MBC賞を受賞。**

**その他メディアにも取り上げられる。**

南日本放送の第55回MBC賞に選ばれ、授賞式はTVで放映されました。また、リクルート社の情報メディアSOOMOやNHKの取材もあり、露出が多い1年でした。

MBC賞を受賞



地域移行支援件数

**22**件

鹿児島県トップクラス!

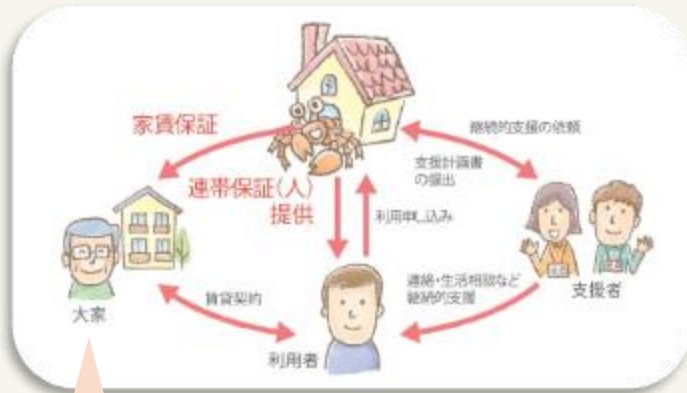
地域移行支援件数**22**件。

**鹿児島県トップクラスの支援件数**

精神科病院の退院支援をピアサポーターと一緒に22件行いました。10以上の病院と連携し、昨年度より大幅に数をのばすことができました。「退院できてよかった!」というお声をたくさんいただいています。

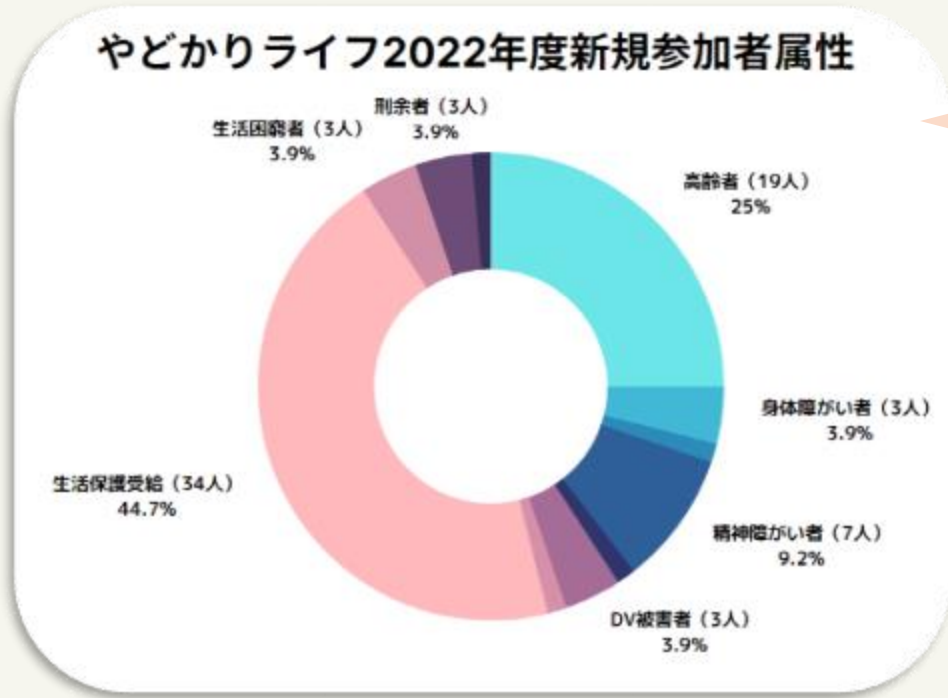
# 1-1, 基幹事業—地域ふくし連携型連帯保証提供事業（地域ふくし連帯保証）

<p>事業の目的</p>	<p>「だれもが居住に困らない社会」を目指して、支援者を配置したうえで賃貸住宅の連帯保証を提供すること</p>
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2007年設立時より開始したやどかりの基幹事業</li> <li>➤ 2023年3月31日現在、利用者<b>398</b>名（前年度+<b>35</b>人、<b>9.6%</b>増加）</li> </ul>



**「地域ふくし連帯保証」とは？**

日常生活・社会生活をケアマネージャーや訪問看護などの福祉専門職に定期的に見守りをしてもらうことで、利用者の社会生活を継続的に支援するシステムです。



**「やどかりライフ」とは？**

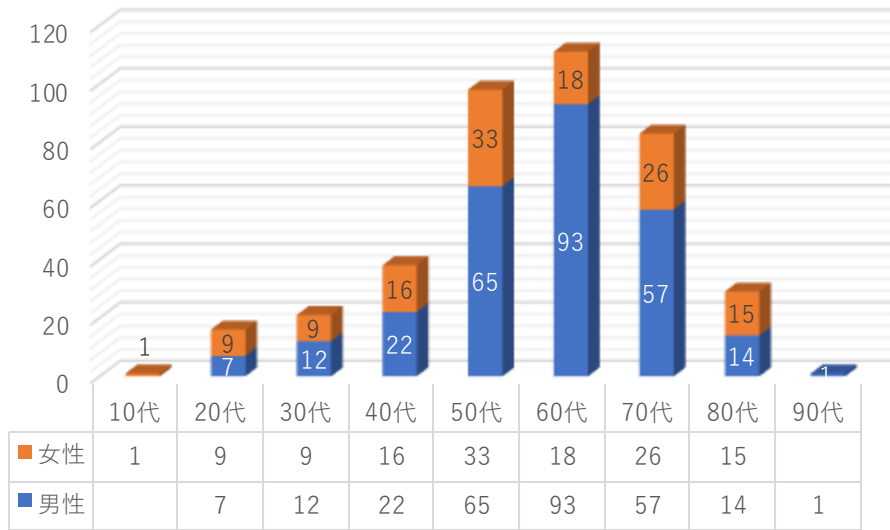
やどかりは保証の条件として福祉専門職による支援者制度を採用しています。

しかし近年、高齢者や困窮者など、福祉サービスが利用できない利用者が増加しています。

やどかりでは、この方たちに相互に支え合う暮らし方である「やどかりライフ」を提案し、つながりあいを勧めています。

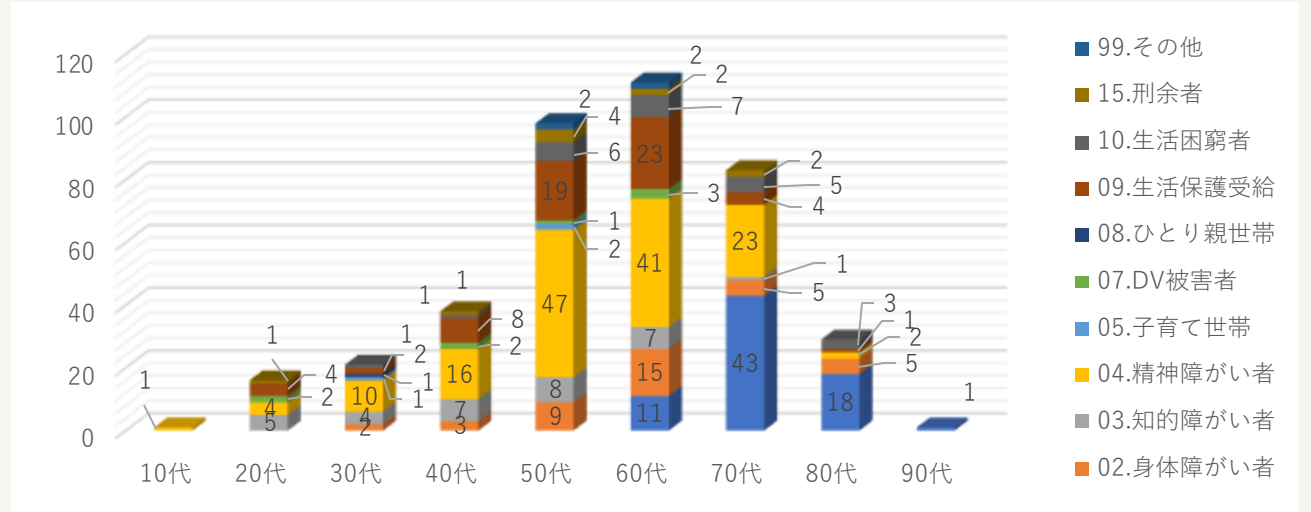
# 1 - 2, 基幹事業—地域ふくし連携型連帯保証提供事業 (地域ふくし連帯保証)

利用者の年代と性別



年代/性別	男性	女性	総計
10代	0	1	1
20代	7	9	16
30代	12	9	21
40代	22	16	38
50代	65	33	98
60代	93	18	111
70代	57	26	83
80代	14	15	29
90代	1	0	1
総計	271	127	398

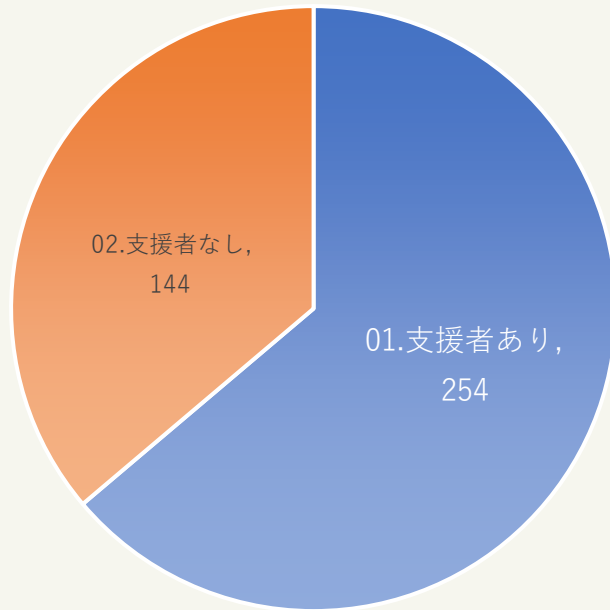
利用者の年代と属性区分



年代	01.高齢者	02.身体障がい者	03.知的障がい者	04.精神障がい者	05.子育て世帯	07.DV被害者	08.ひとり親世帯	09.生活保護受給者	10.生活困窮者	15.刑余者	99.その他	総計
10代	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
20代	0	0	5	4	0	2	0	4	0	1	0	16
30代	0	2	4	10	1	0	1	2	1	0	0	21
40代	0	3	7	16	0	2	0	8	1	1	0	38
50代	0	9	8	47	2	1	0	19	6	4	2	98
60代	11	15	7	41	0	3	0	23	7	2	2	111
70代	43	5	1	23	0	0	0	4	5	2	0	83
80代	18	5	0	2	0	0	0	1	3	0	0	29
90代	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	73	39	32	144	3	8	1	61	23	10	4	398

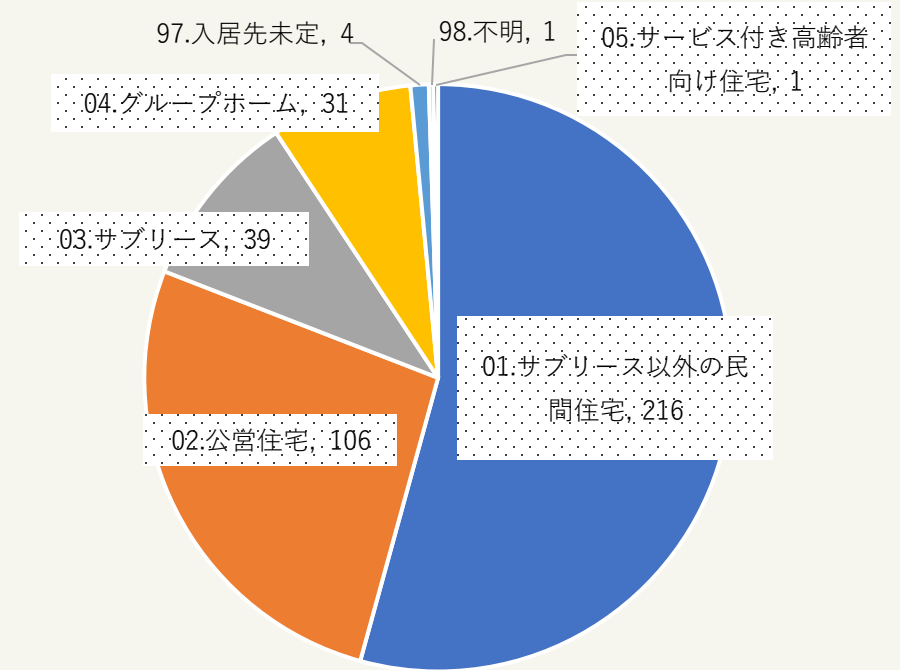
# 1 - 3、基幹事業—地域ふくし連携型連帯保証提供事業（地域ふくし連帯保証）

支援者の有無



支援者の有無	利用者
01. 支援者あり	254
02. 支援者なし	144
総計	398

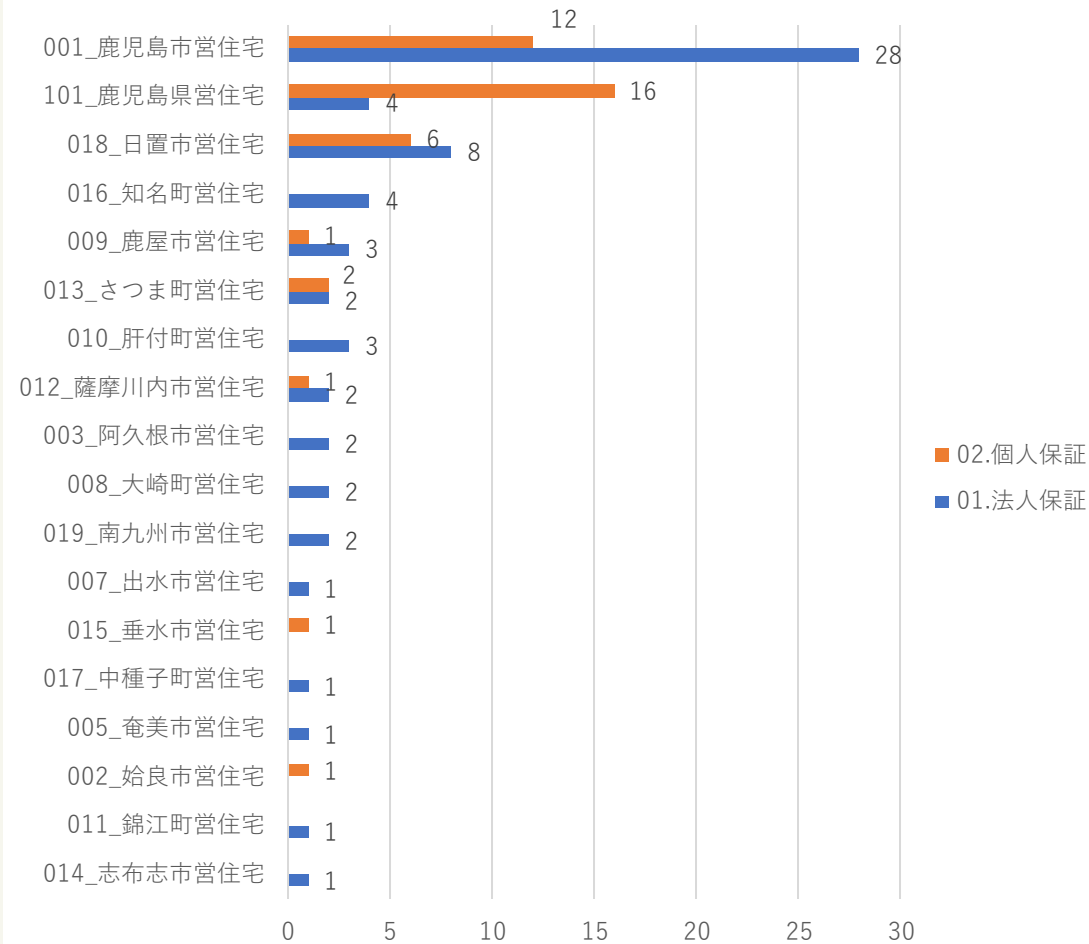
入居した物件と種類



入居先分類	利用者数
01. サブリース以外の民間住宅	216
02. 公営住宅	106
03. サブリース	39
04. グループホーム	31
97. 入居先未定	4
98. 不明	1
05. サービス付き高齢者向け住宅	1
総計	398

# 1 - 4, 基幹事業—地域ふくし連携型連帯保証提供事業 (地域ふくし連帯保証)

公営住宅利用件数と保証区分

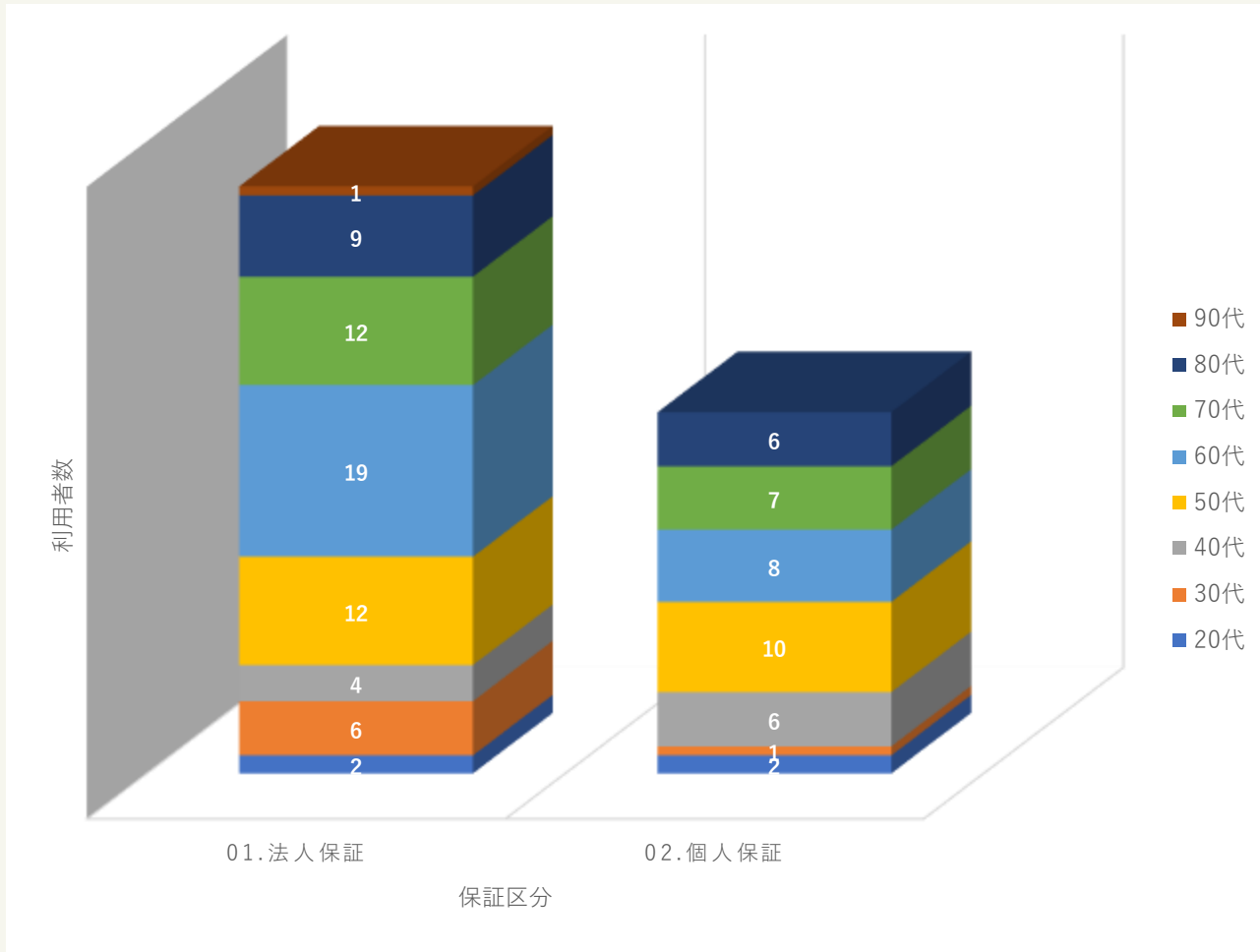


入居先公営住宅	個人保証件数	法人保証件数	総計
001_鹿児島市営住宅	28	12	40
101_鹿児島県営住宅	4	16	20
018_日置市営住宅	8	6	14
016_知名町営住宅	4	0	4
009_鹿屋市営住宅	3	1	4
013_さつま町営住宅	2	2	4
010_肝付町営住宅	3	0	3
012_薩摩川内市営住宅	2	1	3
003_阿久根市営住宅	2	0	2
008_大崎町営住宅	2	0	2
019_南九州市営住宅	2	0	2
007_出水市営住宅	1	0	1
015_垂水市営住宅	0	1	1
017_中種子町営住宅	1	0	1
005_奄美市営住宅	1	0	1
002_始良市営住宅	0	1	1
011_錦江町営住宅	1	0	1
014_志布志市営住宅	1	0	1
総計	65	40	105



# 1 - 5、基幹事業—地域ふくし連携型連帯保証提供事業（地域ふくし連帯保証）

## 公営住宅における年代別保証区分



保証区分	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	総計
01.法人保証	2	6	4	12	19	12	9	1	65
02.個人保証	2	1	6	10	8	7	6		40
<b>総計</b>	<b>4</b>	<b>7</b>	<b>10</b>	<b>22</b>	<b>27</b>	<b>19</b>	<b>15</b>	<b>1</b>	<b>105</b>

### 法人保証と個人保証の違い

公営住宅は基本的に保証人に法人保証ではなく個人保証でなければならないところが多いです。自治体によっては法人保証でも許可される地域もありますが、そうでない自治体もあります。その際はやどかりの理事が個人保証を行っています。

しかしこの形態は理事に大きな負担を負わせることになり、大変リスクが高いものです。

そこでやどかりサポート鹿児島では「①全ての自治体に公営住宅の法人保証の許可してもらう働きかけ」と、「②個人保証から法人保証への移行」を随時行っていく方針です。



# 1 - 6、基幹事業—地域ふくし連携型連帯保証提供事業（地域ふくし連帯保証）

## 2022年度保証事故

保証事故の理由	件数	事故額	備考
死亡	5件	740,640円	5件とも居室内死亡
滞納	29件	630,700円	
退去	4件	109,062円	
転居	2件	310,700円	
逮捕	4件	231,480円	
失踪	1件	1,150円	
<b>合計</b>	<b>45件</b> (内、公営住宅6名13件)	<b>2,023,732円</b> (内、公営住宅419,000円)	

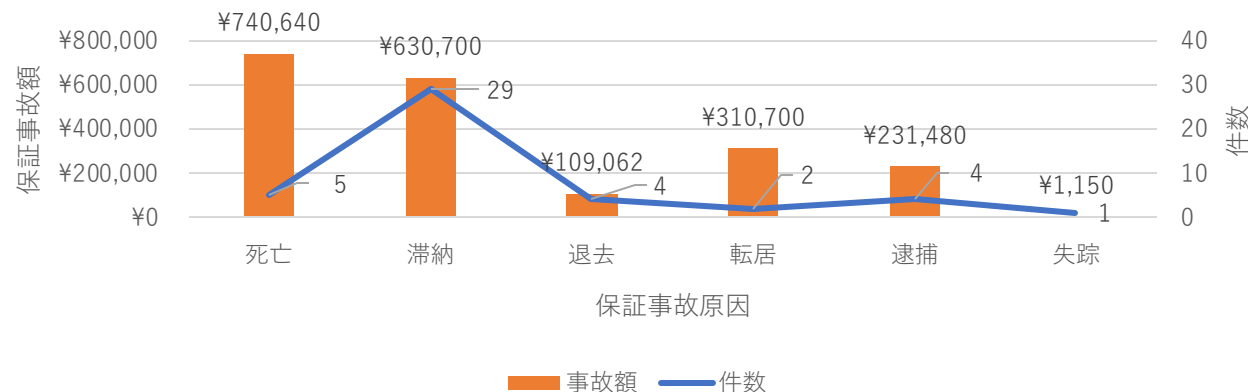
請求額	2,155,476円
代位弁済額	2,023,732円
回収額	156,500円
未回収額	<b>1,867,232円</b>

## 未回収額の増加

身寄りがない方を保証しているやどかりでは、死亡する件数が多くなればなるほど必然的に未回収額が増えます。

設立17年を迎え、利用者の高齢化が今後ますます進んでいく事が予想されるので、これに備えて何らかの対策を行う必要があります。

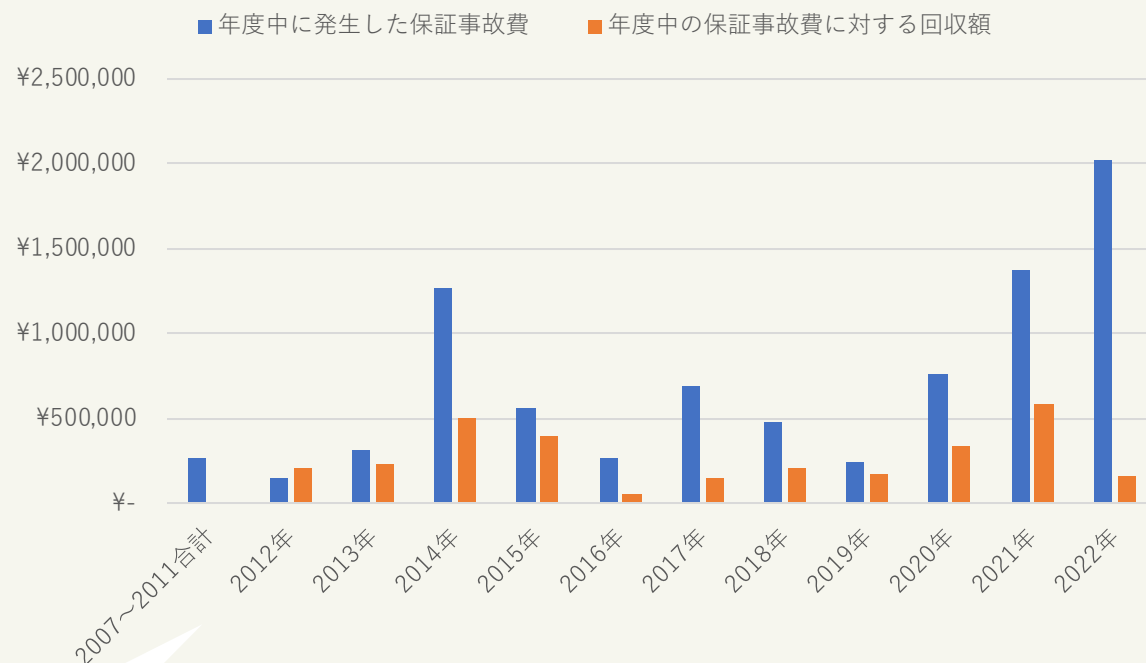
### 保証事故事故額と件数



# 1 - 7、基幹事業—地域ふくし連携型連帯保証提供事業（地域ふくし連帯保証）

## 設立からの保証事故推移

設立からの保証事故費推移状況



### 保証事故費増加の要因

2022年度は補償事故費が**200万円**を超え、設立から最大の金額になった年でした。回収率は**7.7%**とこれまでで最も低い数値になっています。補償事故費が大きくなった理由としては、居室内死亡が5件あったこと、滞納が29件に及んだことが全体の金額のおよそ3分の2を占めています。

年度	年度中に発生した保証事故費	年度中の保証事故費に対する回収額	保証事故費に対する回収率
2007～2011合計	¥ 268,338	¥ -	
2012年	¥ 145,115	¥ 206,010	142.0%
2013年	¥ 306,551	¥ 224,450	73.2%
2014年	¥ 1,271,885	¥ 495,218	38.9%
2015年	¥ 565,511	¥ 395,648	70.0%
2016年	¥ 270,408	¥ 52,400	19.4%
2017年	¥ 684,734	¥ 146,834	21.4%
2018年	¥ 480,204	¥ 203,968	42.5%
2019年	¥ 246,669	¥ 175,509	71.2%
2020年	¥ 756,804	¥ 337,356	44.6%
2021年	¥ 1,378,479	¥ 583,369	42.3%
2022年	¥ <b>2,023,732</b>	¥ <b>156,500</b>	<b>7.7%</b>
合計	¥ 8,398,430	¥ 2,977,262	35.5%

## 2 - 1、基幹事業－相談支援事業

<b>事業の目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 指定特定相談支援事業：障害のある方やご家族が障害福祉サービスを利用するにあたって、相談ができる窓口</li> <li>➤ 指定一般相談支援事業：地域に出てくるまでの支援（地域移行支援），地域で暮らし続けるための支援（地域定着支援）を通して，地域生活に関する総合的な支援をおこなうこと</li> <li>➤ 日常生活自立支援事業：認知症高齢者，知的障害者，精神障害者等のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう，利用者との契約に基づき，福祉サービスの利用援助等を行うこと</li> </ul>
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2023年3月末現在の指定特定相談支援事業のアクティブ利用者646名</li> </ul>

### 指定特定相談支援事業

- アクティブ利用者：646名  
(1,027名うち，終了者・中断者382名を差引)

### 自立生活援助

- 2022年度は月平均7名の方へサービス提供

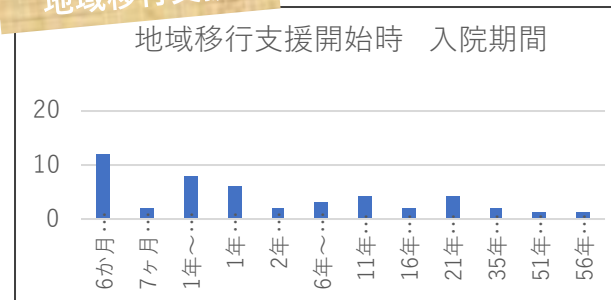
### 指定一般相談支援事業

#### 地域定着支援



- 利用者：2名
- 22名の方へ支援を実施
- 10以上の病院との連携を行った
- これまでの支援した方は，累計47名

#### 地域移行支援



6か月未満の入院期間から支援を始めて、長期入院に至らないよう退院支援をしています。  
35年～54年の超長期入院の方の退院支援も行ってあります。

### 元・国連の健康の権利に関する特別報告者のダニウス・プラス氏、来鹿。



2023年1月23日、鹿児島弁護士会主催の『精神障害のある人の尊厳の確立を求める決議を踏まえての実践と課題』で、国連の健康の権利に関する特別報告者であったダニウス・プラス氏が講演し、鹿児島県における地域移行や居住支援の実施状況を踏まえつつ、精神障害のある人の地域生活の実現に向けた具体的な提言を行いました。

鹿児島で地域移行を行っているやどかりも登壇し、精神科病院長期入院者の退院支援実践について報告を行いました。

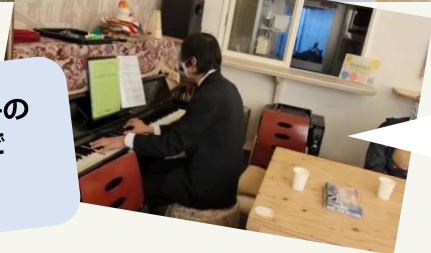
# 委託事業ーピアサポーターステップアップ事業

委託元	鹿児島市
委託事業の内容	<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 「市民健康まつり」に参加（各保健センターにて開催，計5回）</li><li>➢ リカバリーストーリー計7回発表（地域福祉館館長連絡会にて，鹿児島大学医学部保健学科生へ，民生委員・児童委員へ等）</li><li>➢ 地域移行支援にて退院した方を中心に，サロンやどかりを2回開催</li><li>➢ 8回のピアサポーター交流会を開催</li><li>➢ ピアサポーター運営によるフォローアップ研修会を開催</li></ul>
委託期間	2022年6月1日～2023年3月31日

## サロンやどかり



ピアサポーターの  
ピアノ生演奏で  
お出迎え！



地域移行支援を利用して退院した方を中心にご招待し、**サロンやどかり**を開催しました。気ままに話ができる茶話会の形を取りました。

招待状は、地域移行支援で担当したピアサポーターが手書きでお手紙を書き、郵送しました。

## フォローアップ研修会



都城市のNPO「あなたの街の応援団」のスタッフの方も参加し、ピアサポーターのフォローアップ研修会を開催しました。

自身の中にある気持ちと向き合う「シャボン玉のワークシヨップ」を一緒に行いました。



# 委託事業—鹿児島あんしん居住サポート事業における相談窓口の設置

委託元	鹿児島県居住支援協議会
委託事業の内容	➤ 居住支援のための相談窓口の設置
委託期間	2022年4月1日～2023年2月28日

## 2022年度 相談実績

集計月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談日数	20日	19日	22日	20日	21日	20日	20日	20日	20日	20日	19日	22日	243日
<b>相談件数(①+②)</b>	<b>42</b>	<b>39</b>	<b>46</b>	<b>36</b>	<b>30</b>	<b>42</b>	<b>40</b>	<b>48</b>	<b>35</b>	<b>59</b>	<b>34</b>	<b>34</b>	<b>485</b>
<b>① 新規 相談件数(a+b)</b>	<b>26</b>	<b>31</b>	<b>28</b>	<b>27</b>	<b>24</b>	<b>30</b>	<b>33</b>	<b>33</b>	<b>15</b>	<b>40</b>	<b>18</b>	<b>28</b>	<b>333</b>
a) 代表電話着信	24	31	28	27	24	29	32	32	14	36	17	28	322
b) その他の手段(Mail,FAX,SNS,予約のない来所等)	2	0	0	0	0	1	1	1	1	4	1	0	11
<b>② 継続 相談件数(c+d)</b>	<b>16</b>	<b>8</b>	<b>18</b>	<b>9</b>	<b>6</b>	<b>12</b>	<b>7</b>	<b>15</b>	<b>20</b>	<b>19</b>	<b>16</b>	<b>6</b>	<b>152</b>
c) 代表電話着信	15	7	16	9	6	12	3	12	14	11	12	6	123
d) その他の手段(Mail,FAX,SNS,予約のない来所等)	1	1	2	0	0	0	4	3	6	8	4	0	29

※受託期間は4月1日～2月28日

## 2022年度 住宅確保件数

集計月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談日数	20日	19日	22日	20日	21日	20日	20日	20日	20日	20日	19日	22日	243日
<b>住宅確保</b>	<b>9</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>11</b>	<b>9</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>12</b>	<b>14</b>	<b>3</b>	<b>11</b>	<b>6</b>	<b>96</b>
(内、やどかりサポート鹿児島を利用)	(9)	(6)	(6)	(11)	(9)	(4)	(5)	(12)	(14)	(3)	(11)	(6)	96
(内、公営住宅)	(1)	(4)	(1)	(2)	(1)	(0)	(2)	(4)	(3)	(0)	(2)	(2)	22
(内、連携した団体を利用)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	0

※受託期間は4月1日～2月28日

# 委託事業—独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成モデル事業 (WAMモデル事業) における事務局受託

委託元	一般社団法人居住支援全国ネットワーク
委託事業の内容	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 運営委員会の開催 (5回)</li><li>➤ 居住支援法人アンケート 2021 のとりまとめ (3回)</li><li>➤ 保証の提供にかかる実践事業 (4回)</li><li>➤ 居住支援の可視化・政策化・制度化に向けた地域単位での居住支援実態調査 (愛知・熊本・茨城の3か所で調査)</li><li>➤ 居住支援の可視化・政策化・制度化に向けた当事者の実態調査 (全7回)</li><li>➤ 収益事業に関するスーパーバイズ事業 (サブリース3回、死後事務事業5回)</li><li>➤ 関係省庁との協議 (2回、国土交通省及び厚生労働省と協議)</li></ul>
委託期間	2022年4月1日～2023年3月31日

## 会議の設置・運営



本事業でやどかりサポート  
鹿児島は事務局機能を受託。  
会議体の設置と運用を  
行いました。

## 報告書の作成




「居住支援の発展に必要な政策や制度を実現する  
全国実践事業報告書」を作成しました。

こちらからダウンロードできます。

- ◆ [令和3年度・令和4年度WAM事業事業報告書 \(表紙・目次・第1\)](#)
- ◆ [令和3年度・令和4年度WAM事業事業報告書 \(第2・第3\)](#)
- ◆ [令和3年度・令和4年度WAM事業事業報告書 \(第4・第5\)](#)

# 助成事業・補助事業—共生社会実現に向けた住宅セーフティネット機能強化・推進事業

助成・補助元	 国土交通省
事業の目的	住宅確保要配慮者居住支援法人が行う民間賃貸住宅等への入居の円滑化に係る活動の支援に関する事業。 住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅等への入居の円滑化に係る活動（マッチング・入居支援等）を行う居住支援法人に対して、国がその活動に要する費用の一部を補助するものです。
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 入居前支援（79件）</li><li>➤ 入居中の支援（561件）</li><li>➤ 死亡・退去時支援（5件）</li></ul>
事業実施期間	2022年4月1日～2023年1月31日
事業実施地域	鹿児島県

## 入居前の支援

- 精神保健福祉士・社会福祉士の資格を持つ専門職を専従で配置し、入居前の支援を週30時間以上実施しました。
- 入居相談にて住宅確保まで支援した事例は79件でした

## 入居中の支援


- 561件の入居中の支援を行いました。
- 入居中の支援を行うことで、利用者の孤独・孤立を防止しました。

## 死亡・退去時の支援



- 5件の死亡・退去時の支援を行いました

# 助成事業・補助事業—赤い羽根 居場所を失った人への緊急活動応援 第4回助成

助成・補助元	 社会福祉法人中央共同募金会
事業名	コロナ禍で居住困難に陥った当事者が主人公となる居住支援推進事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 当事者による個別訪問活動（<b>8名</b>のスタッフで<b>107名</b>に<b>195回</b>戸別訪問）</li><li>➤ 居場所の運営（<b>全70回</b>）</li></ul>
事業実施期間	2022年4月1日～2022年12月31日 (2021年度については、2021年12月1日～2022年3月31日実施)
事業実施地域	鹿児島市

## 居場所運営

70回！



鹿児島市の下荒田、郡元の2会場で計70回の居場所運営を開催しました。

コロナワクチンの接種・関連助成金の受給の申請が分からない方への支援や、当法人が推進する**つながるファイル**を通じて孤独・孤立を考える機会を創出しました。

## 戸別訪問

107名に  
195回！



コロナ禍で孤独・孤立化が懸念される中、**8名**の訪問スタッフが**107名**を対象に**195回**個別訪問を行いました。

感染防止の対策が大変でしたが、訪問によってコロナ禍で孤立し孤独感を感じていた利用者さんに安心感を持っていただくことができました。

## 今後の課題




### 通信手段の確保

利用者の中には携帯電話を持っておらず、安否確認が非常に難しい方がおられます。

携帯電話などの通信手段を持っていただく必要性を丁寧に説明していく必要性を感じました。



# 助成事業・補助事業—令和4年度予備費 社会福祉振興助成事業

助成・補助元	 独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業（WAM助成） ※政策動向や国民ニーズを踏まえ、民間の創意工夫ある活動や地域に密着した活動等に対し助成を行い、高齢者・障害者等が自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう必要な支援を行うことを目的とした助成金です。
事業名	生活困窮者支援のための当事者主体のシェルター運営事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 個室シェルター3部屋の運営（<b>26人</b>の利用実績）</li> <li>➤ ピアサポーターによるシェルターの清掃・入居者の補助                      ※シェルター運営には居住困難の経験がある方に“ピアサポーター”としてご協力いただきました。</li> <li>➤ ピアサポーターの交流会・研修会・事例検討会の実施（<b>全10回</b>）</li> <li>➤ シンポジウムの実施（2022年2月10日 <b>142名</b>参加）</li> </ul>
事業実施期間	2022年4月1日～2022年3月31日
事業実施地域	鹿児島市
報告書URL	<a href="https://npo-yadokari.jp/2023/06/13/1439/">https://npo-yadokari.jp/2023/06/13/1439/</a>

**シェルター運営**



**26人!**

安心できる個室のシェルターを運営しました。**1年で26名**を受け入れました。

20～70代の広い年代の方を助けることができました。

**研修会**



**全10回!**

シェルター運営の講習会を**10回**開催しました。

利用者対応や問題点についてNPOスタッフとピアスタッフで熱く語り合いました。

**シンポジウム**



**142人!**

2月のシンポジウムは参加者**142名**で大きな注目を集めました。

ピアサポーターも発表に参加し、朝日新聞の社説でも取り上げられました。

# 2022年度受賞やメディアへの掲載

## SUUMOジャーナル

(2023年2月13日)



大手メディアリクルートの不動産ニュースで、やどかりの地域ふくし連帯保証や、互助する暮らし「やどかりライフ」が取り上げられました！

## MBC賞

(2022年10月7日)



経済や社会・文化などで鹿児島への貢献が期待される団体や個人に与えられる賞です。

共生社会の実現に大きく貢献したことが評価されました。

## 鹿児島県社会福祉協議会 会長表彰

(2023年2月13日)



県のボランティアセンターに登録の団体の中から、福祉分野の活動に功績が特に顕著な団体が表彰される賞です。

## 広報きりしま

(2022年5月号)



霧島市の広報誌「公報きりしま」で「福祉相談センターやどかり」で活躍しているピアサポーターさんのことを取り上げていただきました！

# これまでの実績

※一部を掲載

## 講演・講師実績

※順不同  
※重複を除く

内閣官房（孤独孤立に関するフォーラム）/全国社会福祉協議会/一般社団法人全国居住支援法人協議会/全国権利擁護ネットワーク/全国生活困窮者自立支援ネットワーク/生活困窮者自立支援全国研究交流大会/居住支援全国サミット/日本医療ソーシャルワーク学会/社会福祉法人恩賜財団済生会/みんなの認知症情報学会/東京都世田谷区砧保健福祉センター/長野県中野市地域包括支援センター/長野県社会福祉協議会/宮城県居住支援協議会/知多地域成年後見センター/特定非営利活動法人コミュニティ実践研究センター/特定非営利活動法人わっぱの会/熊本県居住支援法人連合会/松江市社会福祉協議会/一般社団法人福岡県医療ソーシャルワーカー協会/別府市社会福祉協議会/日向市/北九州市自立支援協議会/福岡県社会福祉協議会/雲仙市地域包括支援センター/九州ろうきん鹿児島県本部/生活保護支援九州・沖縄ネットワーク/鹿児島大学/鹿児島国際大学/鹿児島県/鹿児島県居住支援協議会/鹿児島県社会福祉協議会/鹿児島県社会福祉士会/鹿児島県民生委員児童委員協議会/鹿児島県介護支援専門員協議会/一般社団法人鹿児島県労働者福祉協議会/そお地区基幹相談支援センター/大隅くらし・しごとサポートセンター/とくのしま居住支援協議会/熊毛地区精神保健福祉部会/一般社団法人サツマスタ/祁答院組仏教婦人会連盟/グリーンコープ生活協同組合連合

## 受賞実績

MBC賞/鹿児島県社会福祉協議会会長表彰/鹿児島市社会福祉功労者表彰/公益財団法人社会貢献支援財団社会貢献者表彰/鹿児島市社会福祉協議会福祉功労者賞/かごしま市チャレンジ大賞サポート部門受賞/ペーパーミントウェブ賞金賞

## メディア掲載実績

※重複を除く

NHK/KYT鹿児島讀賣テレビ/毎日新聞/南日本新聞/奄美新聞/南海日日新聞/讀賣新聞/SUUMOジャーナル/広報きりしま